

# 民主島根

2019年  
**6.23**  
第1339号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444  
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

## 共闘で政治を変える共産党 党躍進、野党統一 中林氏勝利を

### 松江市副委員長迎え決起集会

日本共産党島根県委員会は6日、市田忠義副委員長を迎えて松江市で決起集会を開きました。市田氏は「比例は共産党、選挙区は『元共産党衆院議員、無所属、市民と野党の共同候補・中林よし子を国会に』と訴えていこう」と呼びかけ、日本共産党は、共闘で政治を変えることを綱領に掲げる党だと述べ、市民連合と野党の「共通政策」の意義も紹介し、市民と野党の共闘の勝利を訴えました。



比例での党躍進、野党統一予定候補・中林氏必勝への決意を固め合う(左から)後藤県委員長、中林氏、市田副委員長、尾村県議(松江市)



尾村県議は「保守の人も今の政治に苦しめられています。ウイングを広げ生をかけてたたかいたい」と力を込めると、会場全体から大きな拍手が沸き起こりました。

## 6月県議会の論戦から 尾村県議の一般質問

### 丸山知事に福島視察求める

尾村県議は、島根県政の重要課題の一つである島根原発問題について、丸山達也知事の政治姿勢を問いました。尾村氏は「現場主義に施政方針で『現場主義に徹する』と表明したことを受け、『福島を視察し、その現実を直視し、県の政策判断に生かすべき』と要求しました。」

丸山知事は「再稼働の判断の際、福島事故を踏まえ、どのような対策がとられているかが大きな要素」と答え、「できるだけ早期に福島を訪れ、事故原因とその後の対応、地域の状況を直接確認したい」と応じました。尾村氏は「県政は国の原子力政策に無批判・迎合してはならない」と強調。丸山知事は「国の政策を注視し、県としても必要な対策を要望していく」と答えました。

## 全国一律最低賃金制度創設を

最低賃金の地域間格差は都市部への人口集中を促す一方、地方では人口減少が進み、過疎化を加速させ、地域経済を冷え込ませる要因となっています。尾村県議は「国がすすめている消費税増税、社会保障切り捨てやアベノミクス、地域産業の打撃となるTPPやFTA推進は島根創生に逆行する」と指摘。その上で▽生計費原則に基づく8時間労働で生存権を保障できる最低賃金制度を▽最低賃金は少なくとも時給



参院鳥取・島根選挙区の野党統一予定候補、無所属の中林よし子元衆院議員は11、12の両日、隠岐の島、海士、西ノ島の各町を訪れ、自治体、農業団体、福祉施設などとの懇談、街頭宣伝を行いました。隠岐の島町では、池田高世偉(こうせい)町長が、島に戻って就職する人や新規雇用した企業への町独自の助成制度を紹介。間伐材を加工した木質ペレットを使った発電事業で「エコの島」をめざすと述べました。

### 隠岐諸島 中林野党統一予定候補が懇談

中林氏は「ぜひ日本のモデルにしたい。農林水産委員としての経験を生かし、後押ししたい」と語りました。(写真)

くらしに希望を、農業の未来を  
**とことん・トーク**  
6月28日(金)午後2時~  
安来市総合文化ホール・アルテピア

長野県農協地域開発機構研究所長  
岡山大学名誉教授  
**小松 泰信**

参院選挙区予定候補(元衆院議員)  
**中林 よし子**

主催: 日本共産党島根県委員会・鳥取県委員会

**鼓動** 仕事柄、文書をつくるときはパソコンで、文字を書くときはボールペンをを用いるため、鉛筆を使用する機会ほとんどなくなりました。小学校高学年までは「HB」の鉛筆をよく使っていたことを思い出すが、HBのシェアが低下しているのと知って驚いた▼鉛筆のシェアの大部分を占める「三菱鉛筆」と「トンボ鉛筆」によると、20年ほど前は、HBが全体の半数ほどを占めて首位だったが、今では2〜3割にまで減少し、より芯が柔らかい「2B」のシェアがトップになった▼鉛筆のJIS規格は、芯の硬さに応じて17種類が規定されている。芯の硬いものから順に6B、5B、4B、H、HB、F、H、2H、3H、9Hまで。Bは「ブラック」、Hは「ハード」の略。柔らかいほど字が太く濃くなり、硬いほど折れにくくシャープな線を引くことができる。HBは濃さと硬さの中間として「基準になる鉛筆」と位置づけられ、2Bが主流となった現在も、選挙の記名やマークシート式のテストなどではHBが主に使われている▼主役がHBから2Bに変わった理由の一つに、子どもの筆圧が下がり、入学時に「2BもしくはB」を指定する学校が増えているのだという。子どもたちにとっても、感触として濃く書ける鉛筆の方が高評価のようだ▼日常、使わない鉛筆だが、議会報告などの各種チラシやニュースを作成するときは、まず鉛筆を使ってラフスケッチすることを教わった。子ども時代には慣れ親しんだHBの鉛筆を使って、内容の濃いシャープなチラシをつくるために、自然と筆にも力が入る。(遠)